

◎子どもたちの夏
～昔はどんな遊びをしてた？（男子編）



「♪むーぎわらぼうしはーもう消えたー」などとつい口ずさんでしまいたくな るように、夏も終盤です。現代はゲーム全盛の時代。ゲームなどなかったころの 子どもたちはどんな遊びをして夏休みをすごしていたのでしょうか？

昔、少年だった人たちに取材しました。すると「自然のモノを使って虫とりを した」という実際を説明してくれました。その中から三つ紹介します。

セミとり①



←細い竹を 輪にして、 長さ3mほどの 竹の先に細竹の 両端を差し込む。

輪の部分にクモの巣をなるべくすき 間なくつける。コガネグモ（ヤンカイ） とジョロウグモの巣は粘着性が強く、 セミを捕まえるのに最適。

セミとり



ひごのかみ
「肥後の守」（ノコの歯付もあった↑）

↑これ一本をポケットにしのばせておけば、 ほとんどの遊びはこと足りた時代でした。

ハランの葉を丸め、長い竹 の先にカズラでしばる。→



セミにこの葉 をかぶせると 幹とこの角度 とがピタリと 合う。コツは かぶせて突く。 するとセミは すばまつた葉 の根本へ。

セミとり②



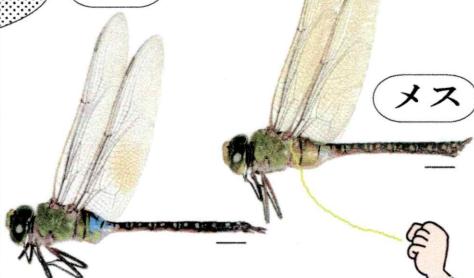
ボーズつり

○夕暮れには、 稲刈り後の田んぼにトンボが群れます。

○ボーズが交尾時期ともなると、 メスを狙って近づきます。

○その習性を生かして…。

オス



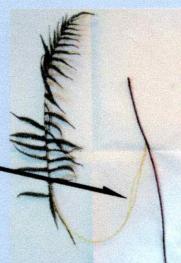
ボーズはギンヤンマのオス。 オスに比べてメスの羽は、 わずかに黄色がかっている。 メスの数が少ないので稀少価値あり…

メス



カボチャの 雄花の花粉 をオスの羽 に塗るとメ スに変身！

ネーバ（シダの一 種）の茎を 裂いて取り出し、 中にある黄色の 筋を変身させた オスの胴に結ぶ。



ネーバの茎は 長く、1m近くあるので2 ~3本つなぎ、はじっこを 手に持ち、メスに変身させたボーズを放してとばす。

メスと勘違いしたオスが 近づき、油断しているところを捕獲。

ヤンカイの イサカイ



写真は加治木のクモ合戦

- ①棒の両はしにそれぞれのヤンカイをはわせる。
- ②棒の中央あたりで両者をイサカワスイ。
- ③地面に落とす。または、しりから出す糸 で相手のヤンカイをからめたら勝ち。

※地面に落ちかけたら♪上は山山、下は川川と唄いながら、手の平で触れて棒までもどす。

昭和30年代ごろまでは、世の中にはモノがない時代でした。だからそのころの子どもたちは肥後の守を巧みに使って遊びの道具を作り、工夫しながらより楽しい遊びを編み出したのでした。

冒頭の歌はよしだたくろうの『夏休み』ですが、4番の歌詞に「♪畠のとんぼはーどこいったーあのときにがしてーあげたのにー」と続きます。そういうえば、最近とんぼの群れを見かけなくなりました。

この取材には田本実美さん、長野健太郎さんに協力をいただきました。

西之表市地域支援課

上西集落支援員

馬場 信一 編集

連絡先090-9579-3953

上西校区長責任発行